

式 辞

早春の柔らかな光が窓から差し込み、広島城のお堀端では、春の草木の香りが新たな命の芽生えを感じさせます。校舎を隔てたグラウンドからは、基高生達の明るい声が、徐々に大きくなってきました。若者たちが躍動を始めたこのよき日に、広島市教育委員会委員長井内康輝様、PTA 会長 亀岡洋海様をはじめ、本校に縁のある方々のご臨席を賜るとともに、保護者・ご家族の皆様のご列席のもと、広島市立基町高等学校第 66 回卒業式を盛大に挙行できますことは、この上ない慶びであり、深く感謝申し上げます。

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。本日、皆さんが、本校教育課程を無事修了されたことに、教職員を代表して心よりお祝いを申し上げます。

思い出してみてください。入学当初。慣れない通学、授業進度の速さに皆さんの表情からは戸惑いが感じられました。土曜日・日曜日にはクラブの練習や大会、加えて毎週の週課題に月曜日には眠そうな表情も伺えました。考える間もなく日々は過ぎ、徐々に学校生活に慣れたのか、7月、文化祭を迎える頃の皆さんの表情には、友達と準備を楽しむ、明るい笑顔が溢れるようになりました。

2年生のときです。ある先生から発せられた言葉が非常に印象に残っています。それは、修学旅行から帰った広島駅でのこと。本校の修学旅行は、準備、当日ともに、先生方も大変です。毎年、どの先生からも「疲れました。」の声が返ってきます。しかし、その先生は、「今までにここまで生徒に任せられる、安心できる修学旅行はなかった。生徒は考えて行動するし、行く先々で感動できた。」と語られました。進路別研修報告会での発表は、その言葉通り、研修の充実ぶりが十分に感じられました。

3年生からは、4階エスカレータ前で皆さんと挨拶を交わしました。皆さんの毎朝の表情を伺いながら声をかけていましたが、いつも気持ちよい挨拶が返ってきました。また、廊下や放課後のグラウンド、清掃等で声をかけたとき、必ず「ありがとうございます。」という言葉も返ってきます。こうした感謝の思いが素直に伝えられる皆さんは、基町高校をさらに高い段階に引き上げてくれるのではないかと大きな期待がありました。実際に、クラブの大会や作品展などで、大きな成果を収め、感動を与えてくれました。

昨年の 12 月の全校集会で、本校の校訓「自主自律」は、開校当初に明文化されたものではない。先生方が生徒に望む思いと、それに応えようとする生徒の姿勢・態度・行動が校風を作り、それが歴史の中で育てられ、教育理念となり、校訓となったという話をしました。その中で、皆さんに「基高生は、最後にすごい力を発揮する。」と言われるような、力強さの加わった新たな校風の樹立を求めました。その言葉通り、受験を直前に控えた 2 月の教室では、最後まで全力で学習に励む多くの姿を目にすることができました。これは必ず後輩に受け継がれ、基高の新たな校風になっていくものと確信しています。

現在、教育界においては、高校教育のあり方が話題となっています。高校生の座学中心の受け身の授業、家庭学習時間の大幅な低下、知識中心の大学入試のあり方などが問われています。しかし、その話を聞くたびに私は首をかしげ、常に皆さんの姿を思い起こします。入学時から週 25 時間を目標に、課題と格闘し、学習習慣を身につけている高校生がいるのではないか。来る日も来る日もキャンパスに向かい、ひたすらデッサンに取り組んでいる高校生がいるのではないか。それを繰り返しているうちに、学問や創作活動の面白さがわかり、主体的に取り組んでいる高校生がいるのではないか。思うようにいかずに悶々と悩んでいる高校生がいるのではないか。それらは確実に生きる力となっているのではないか。

この3年間に皆さんは、いろいろな思いを持って過ごしました。思うようにいかなかった人、苦しい思いばかりだった人。そんな人もいるでしょう。私自身の高校時代もそうでした。しかし、それも人生を生きる意味では大きな肥やしとなっています。がんばれなかったと思っても、後悔することはありません。パナソニックグループ創始者の松下幸之助氏が『道をひらく』という本の中で、このように記しています。「春が来た。夏が来て秋が来て、冬が来てまた春が来た。同じことのくりかえしのように見えるけれども、木々は一まわり大きくなった。それぞれにそれだけ生長している。決して同じではない、くりかえしではない。」

3年間で苦勞したこと、感じたこと。思いは誰しも違います。皆さん一人ひとりの貴重な経験、そのときの感情が個々それぞれの異なった成長を生み、人格を形成し、そして皆さんにしか歩めない道を作っています。他の人には歩めない、自分だけの道です。この道は、広いときもあれば狭いときもある、上りもあれば下りもある、淡々としたときもあれば思いっきり汗をかくときもあります。素晴らしい能力、個性、感性を持ち、魅力いっぱい皆さん。基町高校の3年間でいろいろな力を鍛えてきた皆さん。自分の力を信じ、自分だけに与えられているかけがえのない道を、これからも懸命に歩み続けてください。

私は、本校の新しい歴史の1ページを築いてくれた皆さんの努力に心から感謝します。そして、本日、広島この基町高校で学び、アオギリに宿る鳳凰の若鳥として巣立っていく皆さんが、平和と文化を愛し、大きく高く飛翔してくれることを心より願っています。

保護者の皆様、本日は、誠におめでとうございます。入学以来、本校教育に温かいご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。今日、お子様は卒業していかれますが、末長くご縁をいただきますようお願い申し上げます。本日ご臨席を賜り、卒業生の前途を祝福してくださいました皆様、また、ご列席いただきました保護者ご家族の皆様に、篤くお礼申し上げますとともに、卒業生の皆さん一人ひとりの人生が、生き甲斐に溢れ、幸多きことを祈念して、式辞といたします。

平成二十七年三月一日

広島市立基町高等学校
校長 板倉宏治